

建設産業人材確保・育成推進協議会 第1回若年者入職促進タスクフォース

日時：令和5年5月30日（火）13：30～

場所：（一財）建設業振興基金 501会議室

議 事 次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
国土交通省 不動産・建設経済局 建設市場整備課 課長 西山 茂樹
- 3 「若年者入職促進タスクフォース」について
- 4 議事
若年者入職促進に係る現状と課題
 - （1）全国建設関係訓練校等連絡会議について
 - （2）工業高校の現状と課題について
 - （3）全国高等学校土木教育研究会について
 - （4）建設産業人材確保・育成推進協議会のこれまでの取組みについて
- 5 意見交換
- 6 今後の開催について
- 7 閉会

【配付資料】

- ・ 議事次第
- ・ 若年者入職促進タスクフォース メンバー表
- ・ 建設産業における「若年者入職促進タスクフォース」の取組
- ・ 資料1 全国建設関係訓練校等連絡会議について ～基本理念「ものづくりはひとづくり」～
- ・ 資料2 工業高校の現状と課題 ～新しい取組について～
- ・ 資料3 全国高等学校土木教育研究会について
- ・ 資料4 建設産業人材確保・育成推進協議会のこれまでの取組について

若年者入職促進タスクフォース メンバー

○全国建設関係訓練校等連絡会議		
一般社団法人 利根沼田テクノアカデミー	校長	桑原 敏彦
職業訓練法人 広島建設アカデミー	理事長	福井 正人
職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会	専務理事	菅井 文明
一般社団法人 北陸建設アカデミー	代表理事	小野 貴史
一般社団法人 職人育成塾	専務理事	落合 祐輔
○教育関係		
公益社団法人 全国工業高等学校長協会	理事長	福田 健昌
全国高等学校土木教育研究会	幹事	東 君康
○建設業団体		
一般社団法人 日本建設業連合会	常務理事	金井 甲
一般社団法人 全国建設業協会	常任参与	上田 國士
一般社団法人 全国中小建設業協会	会長	土志田 領司
一般社団法人 建設産業専門団体連合会	会長	岩田 正吾
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会	副会長	手塚 明宏
一般社団法人 建設コンサルタント協会	広報専門委員会委員長	土井 和広
一般社団法人 全国地質調査業協会連合会	専務理事	須見 徹太郎
○行政		
国土交通省 不動産・建設経済局	建設市場整備課長	西山 茂樹
国土交通省 不動産・建設経済局	専門工事業・建設関連業振興室長	坂井 志保
厚生労働省 職業安定局	建設・港湾対策室長	島田 博和
厚生労働省 人材開発統括官付	企業内人材開発支援室長	秋山 雅紀
文部科学省 初等中等教育局	参事官(高等学校担当)付産業教育振興室長	岩間 光彦
		(敬称略)

- 建設産業における若年入職等の促進に向けて、産・学・官が共同して一体的に活動するため、新たにタスクフォースを設置し、関係省庁や教育機関等が連携を強化 (令和5年4月に人材協※のもとに設置) ※建設業人材確保・育成推進協議会

若手入職促進に向けた産学官の新たな連携体制

【新設】『若年者入職促進タスクフォース』

【当面の活動内容】

- ◎ 業界団体等と教育委員会や地元高校との連携の円滑化
- ◎ 教育委員会等に対して通知等を発出し、円滑な連携を呼びかけ
- ◎ 業界団体等の取組から優良事例を発掘・抽出し、水平展開



タスクフォースメンバー

事務局(建設業振興基金)

- 全国建設関係訓練校等連絡会議
 - ・利根沼田テクノアカデミー
 - ・全国建設産業教育訓練協会
 - ・職人育成塾 等
 - ・広島建設アカデミー
 - ・北陸建設アカデミー
- 教育関係
 - ・全国工業高等学校長協会
 - ・全国高等学校土木教育研究会
- 建設業団体
 - ・日本建設業連合会
 - ・全国建設業協会
 - ・全国中小建設業協会
 - ・建設産業専門団体連合会
- 建設関連業団体
 - ・全国測量設計業協会連合会
 - ・建設コンサルタンツ協会
 - ・全国地質調査業協会連合会
- 関係省庁
 - ・国土交通省 不動産・建設経済局
 - ・厚生労働省 職業安定局／人材開発統括官
 - ・文部科学省 初等・中等教育局

情報の集約・発信の強化

戦略的広報の取組(人材協)とも連携して情報発信を充実

- ◎ 「建設現場へGO！」 ⇒ ・若者向けに建設産業の魅力を発信
・「情報掲載依頼フォーム」により一般企業等からも情報を広く募集(R4.4～)



- ◎ 人材協定期便 ⇒ ・全国の工業高校等に建設産業の魅力に関する情報を提供(年3回各学期毎)



(参考)現場見学会・就業体験等 都道府県建設業協会等による取組 ※令和元年度実績:現場見学会287回(12683人参加)、就業体験258回(5031人参加)、出前講座105回(9032人参加)

全国建設関係訓練校等連絡会議について

基本理念

「ものづくりはひとづくり」

全国建設関係訓練校等連絡会議の設立の背景

設立の背景

- 少子高齢化が加速度的に進み、建設産業従事者は今後ますます大きく落ち込んで行くことが予想される中、限られた労働生産力で災害対応を含めた国土保全やインフラ整備・維持メンテナンスに対応していくためには、産業全体の生産性を上げていくシステムが必要です。そのために建設産業従事者一人ひとりの能力を高める「教育」システム、建設産業入職者確保に向けた対策（就職支援、情報提供）、建設産業従事者の処遇改善を図るための新たな施策や制度が求められています。しかし現状『ひとづくり』に必要な「人財確保」「人財育成」は全国各地における個社や有志団体によって対応されており、さらにコロナ禍も相俟って、その活動・運営は厳しく危機的な状況もあり、国を挙げての一貫した更なる取り組みが求められています。建設産業は『ものづくりはひとづくり』、人財育成こそが本丸でありますので、明日の日本を創る我が国の建設技術を守るためにも全国の建設訓練教育施設が連携する団体組織設立が、まずは必要不可欠と考えました。

建設業を取り巻く人材確保育成課題

日本全体

- 公共インフラをはじめ建設工事の品質確保
- 国土の保持、メンテナンスや災害対応
- 技術立国、ものづくり立国の維持
- 経済産業の国際競争力強化（デフレからの脱却・目標GDP600兆円）
- SDGsやカーボンオフセットの国際協力
- 外交防衛における国際協調

建設産業

（経営視点）

- 人材の確保が厳しい（若手入職者激減）
- 高齢化、技術技能伝承問題
- IT化の遅れ
- 他産業との人材獲得競争激化
- 建設市場の見通し（公共投資の安定化）

建設業

従事者

- キャリアパスの見える化
- 職場の安定性と将来性
- OJT（職場内教育）からOff-JTへ（自律的なキャリアアップ研修）
- 数少ない教育訓練施設
- 低賃金、長時間労働
- 「背中を見て・・・」昔ながらの技術技能継承

世間

（家庭視点）

- 不安定な仕事
- 3Kの職場（きつい・きたない・きけん）
- キャリアパスが見えない
- 労働集約型の肉体労働

各建設訓練

施設

- 人材育成がシステム化されていない
- 施設経営、運営は各々での自己責任
- 各訓練施設との連携が希薄
- 国（政府）の施策が安定していない
- 国（政府）としても人材確保育成についての方向性が明確化されていない

各建設教育訓練機関の抱える課題

課題

- 高齢化による熟練工の退職者の増加
- 少子化による入職者（若年者）の減少
- 専門工事業への入職希望の激減
- 各種専門工事業の組合運営が危機的状況
- 将来的な担い手（訓練生）の確保
- 将来的な講師の確保、育成
- 外国人技能実習生向けの講習実施のための通訳及び講習資材の確保並びに教育体系の確立
- 激甚化する自然災害に対する復旧・復興を捉えた教育
- 設立・カリキュラム構成に伴う補助金、助成金等の活用方法
- 将来的な建設業従事者の減少による資格取得者の伸び悩み（新規・更新）
- 建設業従事者の減少による伝統的な専門工事業の担い手不足
- 建設産業の広報宣伝活動並びに普及活動に伴う補助金、助成金の確保

各建設教育訓練機関の今後の取組み

今後の取組み

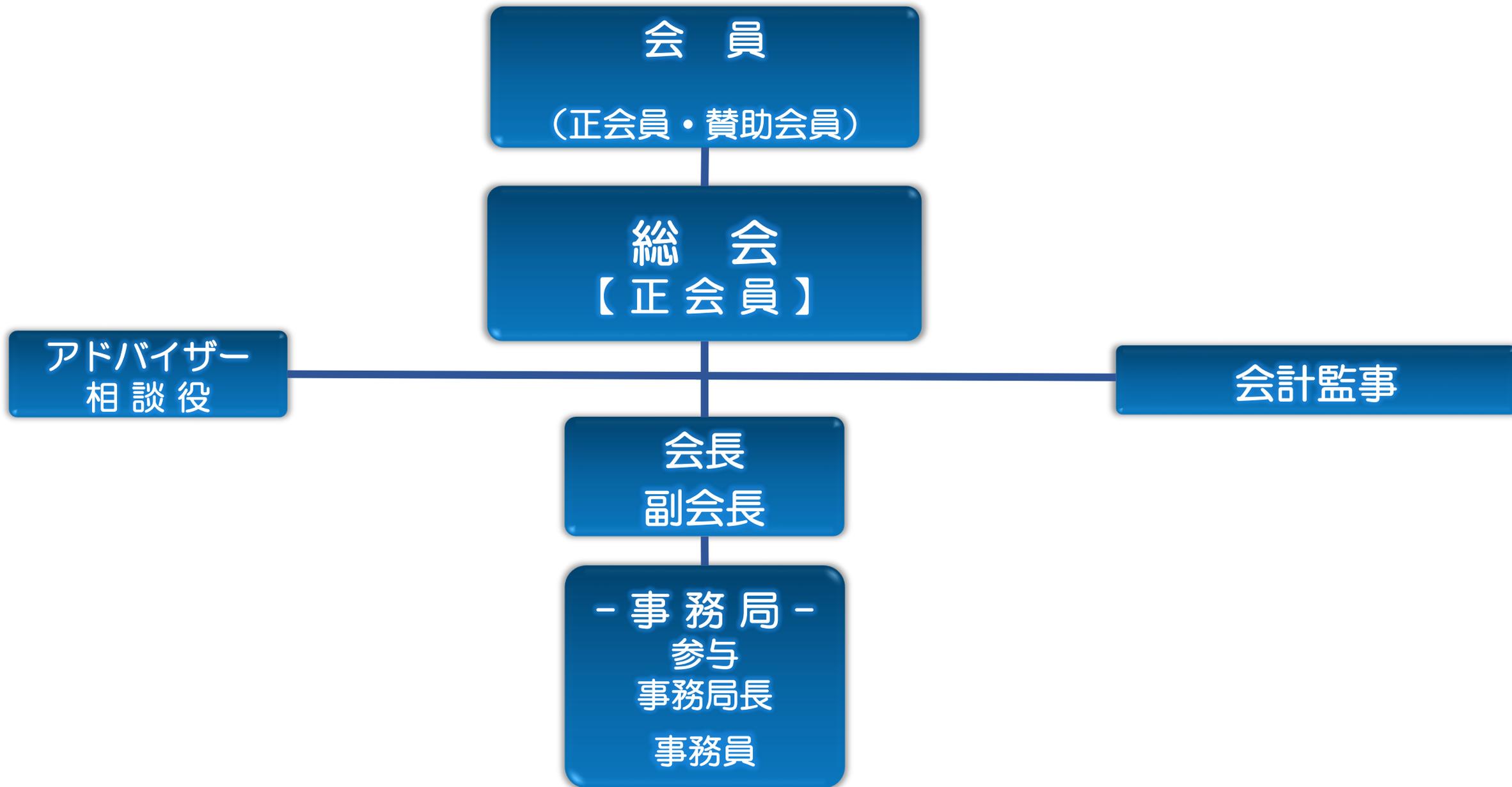
- 訓練カリキュラムや教材等の情報共有化
- 各建設教育訓練機関等の講師に関する情報共有や講師の発掘・育成等についての相互協力
- 建設産業団体、行政機関、教育機関等の建設産業担い手確保・育成に向けた地域連携、ネットワーク等との連携協力
- 全国の建設教育訓練機関等との連携推進とそれら建設教育訓練機関等に対する全国建設関係訓練校等連絡会議への参画に向けた働きかけ

各建設教育訓練機関の要望事項

要望事項

- 教育水準、カリキュラムレベルアップの充実強化の為の財源確保
- 学歴偏重によらない知識と技能を兼ね備えた中間層の維持確保の為の支援強化
- 提携校制度（訓練生、企業、学校）による将来的な担い手確保の推進
- 継続的かつ安定的な育成助成金の確保、増額
- 中長期視点から建設労働者の少子高齢化及び人手不足に対応するための、建設技術者、建設技能者の育成、教育訓練機関の事業に対する国の補助金・助成金確保
- 建設業振興基金との連携強化
- 建設キャリアアップシステムのアップグレード認定講習を実施（認定講師育成）

『組織図』 全国建設関係訓練校等連絡会議



『組織概要』

会 長	(一社) 利根沼田テクノアカデミー 校長 桑原 敏彦
副会長	職業訓練法人 広島建設アカデミー 理事長 福井 正人
副会長	
相談役	職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 会長 山梨 敏幸
事務局参与	職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会 専務理事 菅井 文明
事務局長	(一社) 北陸建設アカデミー 代表理事 小野 貴史
正会員	別紙参照
賛助会員	別紙参照
アドバイザー	◎芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授 博士(工学) 蟹澤 宏剛

工業高校の現状と課題 ～～新しい取組について～～

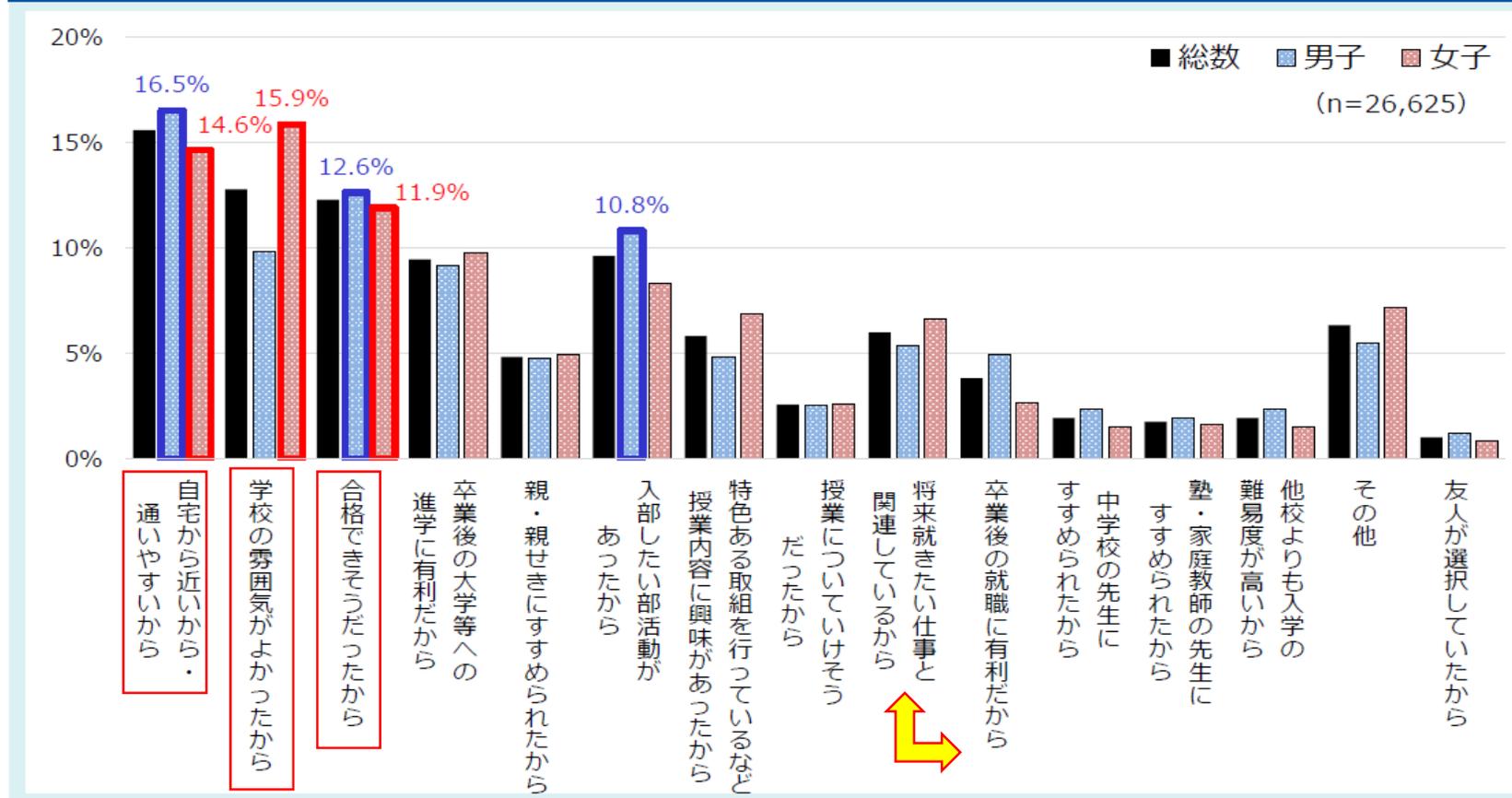
公益社団法人 全国工業高等学校長協会
東京都立六郷工科高等学校
福田健昌

在籍する学校を選択した理由

高校生の現状（高校入学時）

○ 学校選択の理由は、「自宅から近い・通いやすい」、「学校の雰囲気よかった」、「合格できそうだった」が上位。

現在通っている学校を選択したのはどのような理由からですか。（特に強い理由を一つ選択）



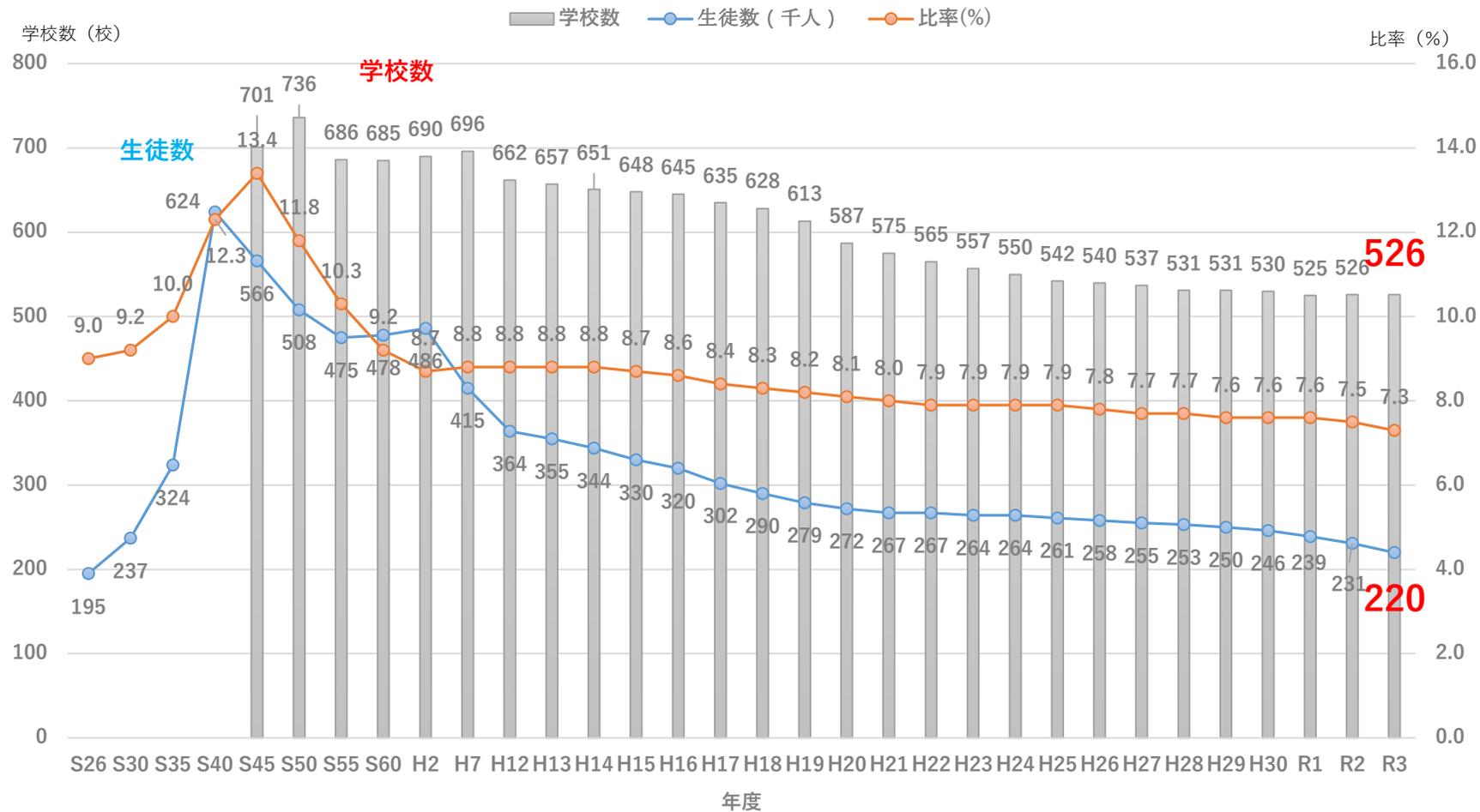
高等学校の学科別入学志願者数 (本科)

平成7年度と令和3年度の比較

	平成7年度(1997)		令和3年度(2021)		増減人数
生徒総数	3,130,562		1,865,015		▲ 1,265,547
普通科	2,438,905	77.9%	1,492,927	80.0%	▲ 945,978
農業科	59,407	1.9%	27,815	1.5%	▲ 31,592
工業科	225,216	7.2%	99,615	5.3%	▲ 125,601
商業科	262,865	8.4%	83,996	4.5%	▲ 178,869
水産科	5,962	0.2%	2,956	0.2%	▲ 3,006
家庭科	50,344	1.6%	20,016	1.1%	▲ 30,328
看護科	14,573	1.6%	6,745	0.4%	▲ 7,828
福祉科	2,798	0.1%	3,914	0.2%	1,116
情報科	—	0.0%	1,519	0.1%	1,519
その他の学科	64,232	2.1%	55,113	3.0%	▲ 9,119
総合学科	6,260	0.2%	70,399	3.8%	64,139

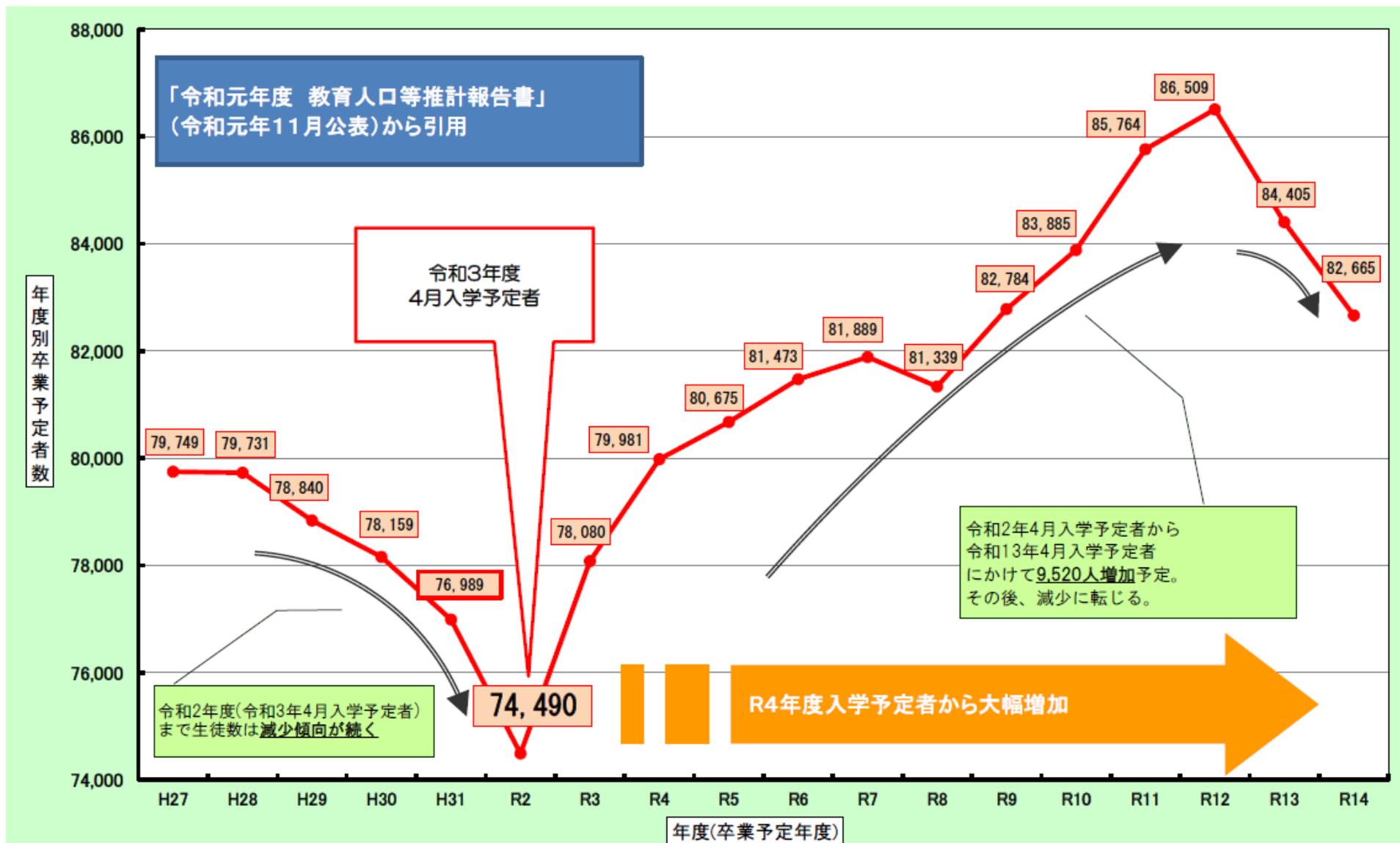
その他の学科：理数、外国語、音楽・美術・体育・その他

工業高校の生徒数及び学校数の推移



(出典)文部科学省「学校基本調査」

年度別都内公立中学校卒業予定者数の推移について



- 1 各年度の数値は、各年度5月1日現在の中学校3年生在籍者数推計値である(※令和元年度教育人口等推計のR元以前の数値は実数)。
- 2 各年度5月1日現在の中学校3年生在籍者数を当該年度の卒業予定者数とした。

R5年4月～工業高校→工科高校

設置場所	学校名
文京区	工芸高校
台東区	蔵前工科高校
江東区	科学技術高校
江東区	墨田工科高校
大田区	六郷工科高校
世田谷区	総合工科高校
中野区	中野工科高校
杉並区	杉並工科高校
荒川区	荒川工科高校
板橋区	北豊島工科高校
練馬区	練馬工科高校
足立区	足立工科高校
葛飾区	本所工科高校
江戸川区	葛西工科高校
府中市	府中工科高校
町田市	町田工科高校
小金井市	多摩科学技術高校
小金井市	小金井工科高校
福生市	多摩工科高校
西東京市	田無工科高校

生徒の可能性を広げる、多様な学科の設置

- 機械、建設、電気など、義務教育段階とは異なる幅広い専門分野の技術の学科を設置



機械

NC旋盤を使用した加工の様子



自動車

車両の点検・整備の様子



建築・設備

コンピュータを使用した製図 (CAD) の様子



都市工学

工事測量と重機操作の様子



電気

高電圧実習の様子



電子

ゲーム用の制御回路作りの様子



情報技術

プログラミングの様子



デザイン

ポスター制作の様子



インテリア

デザインチェアの製作の様子



食品

サバ味噌煮缶製造の様子



環境・化学

溶液成分濃度分析の様子



科学技術

電子顕微鏡を使用した研究の様子

イノベーションが進む世の中

Next Kogyo **START** Project

SDGs の達成

Society5.0 の実現

我が国が目指す社会（Society5.0）について

SDGsとも軸を一にするものとして、仮想空間と現実空間の融合、新たな社会を支える人材の育成などにより、「直面する脅威や先の見えない不確実な状況に対し、持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、**一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会**」を実現

- 技術革新等による産業界におけるDXの推進

コロナからの → 新しい日常

- オンライン授業など、新しい学び

①工業系学科等のアップデート

②企業等との連携推進や交流機会の創出

イノベーションが進み
世の中は大きく変わる中の課題

不易と流行

匠の技の伝承と先端技術への挑戦
ハイブリットな学びへ！

①工業系学科等のアップデートの概要

産業界における技術革新やDXの推進などに向け、先進的な学科へと発展的にリニューアル 都市課題の解決に向けた学習や、先端技術分野の学習、ITと“ものづくり”を組み合わせた学習の強化、これまで学校が取り組んできた特色の強化などの視点から改編等を推進します。

都市課題の解決

Solution

「防災」等の都市課題の解決を通じ、産業界が必要とする課題解決能力を育み、社会で活躍できる人材の素地を育成します。

北豊島工業高校（板橋区）

令和6年度

総合技術科 → 都市防災技術科（仮称）へ改編

※首都東京の「防災」という観点から、学校の教育内容を総合的に充実



ドローン点検

サーバ復旧

小型特殊車両

地域連携の推進

Cooperation

地域社会や企業等との連携を推進し、地域の産業を支える人材の素地を育成します。

墨田工業高校、六郷工科高校、練馬工業高校、足立工業高校、葛西工業高校、多摩工業高校、田無工業高校など

※地域企業等との連携について、全校で推進・充実



先端技術の学習（産業DXへ対応）

DX

産業界のDXやイノベーションなど、これからのものづくり企業で求められる技術革新に対応できる人材の素地を育成します。

総合工科高校（世田谷区）

令和5年度

機械・自動車科、電気・情報デザイン科、建築・都市工学科

→ 各学科において学ぶ技術のDXを推進

※企業連携を推進し、常に新しい技術の学習を展開



電動自動車

蓄電技術

コンピュータ
解析技術

蔵前工業高校（台東区）

令和5年度

機械科でロボティクスコースを展開

各学科において学ぶ技術のDXを推進

※産業ロボットの学習を通じ、製造業でニーズが高まるロボットSierを育成



産業用ロボット

BIM
（仮想ビルディング
モデル技術）

六郷工科高校（大田区）

令和7年度

プロダクト工学科、オートモビル工学科、システム工学科、デザイン工学科、デュアルシステム科

→ 単位制の特色等を生かし、先端技術を学習する学科への改編を検討



発展的なIT学習

IT

I T 企業等との連携などにより、I T 企業や産業界各分野でD Xを担うことができるI T 人材の素地を育成します。

町田工業高校（町田市）

情報テクノロジー系列において

Tokyo P-TECH開始（令和3年度）

荒川工業高校（荒川区）

情報技術科においてTokyo P-TECHの導入を検討

府中工業高校（府中市）

情報技術科においてTokyo P-TECHの導入を検討



Tokyo P-TECH

工業高校3年間と専門学校2年間の接続を図り、IT企業の実務家等からの支援により、IT人材の育成を目指す教育プログラム



特色の強化

Upgrade

「食品」「環境」など、これまで学校が培った特色を一層強化し、産業界における技術の進化等に対応できる人材の素地を育成します。

IT×SDG s のIT環境科（仮称）へ

杉並工業高校（杉並区）

令和6年度

電子科、理工環境科、機械科をIT環境科（仮称）へ改編

※IT教育等を実践し、進学も見据えて環境に関わる素養をもったIT人材を育成



中野工業高校（中野区）

令和6年度

キャリア技術科

（機械、食品、工業化学）

→ 食品サイエンス科（仮称）へ改編

※食品加工と工業化学を連携させ、食を考える学習を強化



イノベーション人材の育成

Innovation

理数分野の資質・能力と、技術・工学分野の資質・能力を融合し、自らの得意分野を生きながら協働してイノベーションを生み出す人材の素地を育成します。

科学技術高校（江東区）

令和6年度

科学技術科の一部を理数に関する学科に改編



科学技術高校では、令和3年から文部科学省によるスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、先進的な理数教育のカリキュラム開発にも取り組んでいます。

※画像は、イメージです。

去年の夏の話しです（令和4年7月）

- 高校新卒の求人数 40万1394人
- 就職を希望する ①普通科高校 4万4924人
- ②専門高校 9万3277人
- 合計13万8201人

26万3193人 不足
インフラ整備・建築・製造業
(ものづくり)

工業高校の現状と課題

- ①工業高校への応募者が少ない
 - ・少子化・普通科志向・通信制
- ②教員不足
- ③施設設備の更新

普通高校と工科高校の違い

- ◎普通教科以外に自分が入学した
専門学科の座学と実習がある。
- ◎資格取得や検定受検の指導が充実
- ◎社会で働くことを常に意識した
生活指導と進路指導
- ◎求人数は生徒一人当たり20社以上
- ◎大学進学は推薦入学がほとんど



実習が学びの基礎

- ①先生から 手本を見せてもいないながら **計画を教わります。**
- ②とにかく **自分で作業をします。**
- ③うまくいきません！ 取り返しつく**失敗をします**
- ④どうしたらうまくできるかを**考えます**

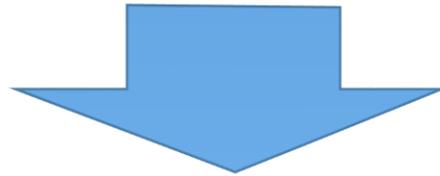
この繰り返しを学びます

PDCAサイクル

成長する生徒の特徴

※成功体験を重ねると

- ①対話の中で新たに「可能性」に気づいた生徒
- ②「打ち込むもの」を見つけた生徒



工科高校の生徒は、自分で勉強することで
⇒他人にはできないことができるようになる
⇒技術で、自分の将来を豊かにできる！
⇒つまり、幸せになれる可能性がある！

六郷工科高校のこと

①都内唯一の、単位制 工業高校

②5科あります

- ・プロダクト工学
- ・オートモビル工学
- ・システム工学
- ・デザイン工学科
- ・デュアルシステム科

- ・自分で時間割を決める
- ・専門学校の授業を先取り
- 【eスポーツについて】
- ・充実した施設設備
- ・めざしている資格取得
- ・企業連携を求めています

ハイブリッドな学びへ

- 【至急】 匠の技の伝承
- 【イノベーションが進み】
授業と研修

※学校現場だけでは・・・

令和4年度ものづくりコンテスト

第22回高校生ものづくりコンテスト（北信越大会）

- 地区大会の参加者数は

①旋盤作業	190校234名	②自動車整備	48校90名
③電気工事	176校249名	④電子回路組立	139校262名
⑤化学分析	100校215名	⑥木材加工	123校261名
⑦測量	127校494名	⑧公開競技 溶接	195校547名

- 合計1098校2352名

結果

(1) 木材加工部門

- | | | | |
|--------------|---------|----|---------|
| ①新潟県立新津工業高校 | 日本建築科 | 3年 | 農林水産大臣賞 |
| ②長崎県立長崎工業高校 | 建築科 | 2年 | |
| ③愛知県立郡山北工業高校 | 機械建築工学科 | 3年 | |

(2) 測量部門

- | | | | |
|---------------|---------|----|---------|
| ①兵庫県立兵庫工業高校 | 都市環境工学科 | 3年 | 国土交通大臣賞 |
| ②愛知県立愛知総合工科高校 | 建築科 | 3年 | |
| ③高知県立高知工業高校 | 土木科 | 3年 | |

全工協会主催 夏季講習会（教員研修）

- ・ 二級建築士製図試験解決テクニック
- ・ 姫路城建築学と町家再生
- ・ 2級建築施工管理技術検定一次対策
- ・ 建築(RC)を非破壊で劣化を診断してみよう
- ・ ドローンプログラミング体験講座
- ・ 建築をこれから楽しく学ぶ生徒への意識づけワークショップ

(SOLIDWORKS・航空整備士・3DCAD・産業用ロボット等々
※107講座)

R5(2023)			推薦			一般		
区市町村名	学校名	科名	募集	応募	倍率	募集	応募	倍率
台東区	蔵前工	建築	14	17(3)	1.21	18	12	0.67
		設備工業	14	13	0.93	20	8(1)	0.4
江東区	墨田工	建築	14	10(5)	0.71	25	13	0.52
世田谷区	総合工	建築・都市工学	28	36(5)	1.29	42	10	0.24
江戸川区	葛西工	建築	28	20	0.71	50	43(2)	0.69
西東京	田無工	建築	28	37(10)	1.32	42	30(1)	0.71
		都市工学	14	13	0.93	21	12	0.57
			140	146(23)		218	166(4)	

H30(2018)			推薦			一般		
区市町村名	学校名	科名	募集	応募	倍率	募集	応募	倍率
台東区	蔵前工	建築	10	34(6)	3.4	24	36(5)	1.5
		設備工業	10	28	2.8	25	31(1)	1.24
江東区	墨田工	建築	10	27(3)	2.7	25	35(3)	1.4
世田谷区	総合工	建築・都市工学	21	34(1)	1.62	49	18	0.37
江戸川区	葛西工	建築	21	30(4)	1.43	49	47(2)	0.96
西東京	田無工	建築	21	46(10)	2.19	49	52(3)	1.06
		都市工学	10	29(3)	2.9	25	27(1)	1.08
			103	228(27)		246	246(15)	

人材は工業高校にあり

本日は ありがとうございます
よろしくお願ひします

■概要

名称『全国高等学校土木教育研究会』

本会は高等学校土木系教育の充実と発展を図ることを目的とした教職員の研究会である。

本会はその目的を達成するため、おもに次の事業を行っている。

- 1) 会員、各校相互の連絡と教育成果の交換
- 2) 東日本高等学校土木教育研究会(東日本地域)と西日本高等学校土木教育研究会(西日本地域)で行う諸活動
- 3) 土木学会 教育企画・人材育成委員会 高校教育小委員会との連携活動
- 4) 関係諸官庁・教育団体・産業界との連絡調整
- 5) その他必要な事項

■組織

全国に設置されている高等学校土木系学科 162 校(全日制、定時制課程を含む)を東西9地区にわけ、さらに地理的な状況から東日本高等学校土木教育研究会、西日本高等学校土木教育研究会として活動のすみ分けを図っている。東西の研究会から選出されている幹事で構成された全国高等学校土木教育研究会幹事会が東西の連絡窓口となっている。さらに、公益社団法人土木学会の指導、助言のもとに、高等学校土木教育の発展のための取組や教員の研鑽を行う講習会を実施する委員会を設け、積極的な活動を行っている。また、公益社団法人全国工業高等学校長協会と密な関係を取り、各校の校長指導を仰ぎながら生徒教育や地域との連携活動を行っている。

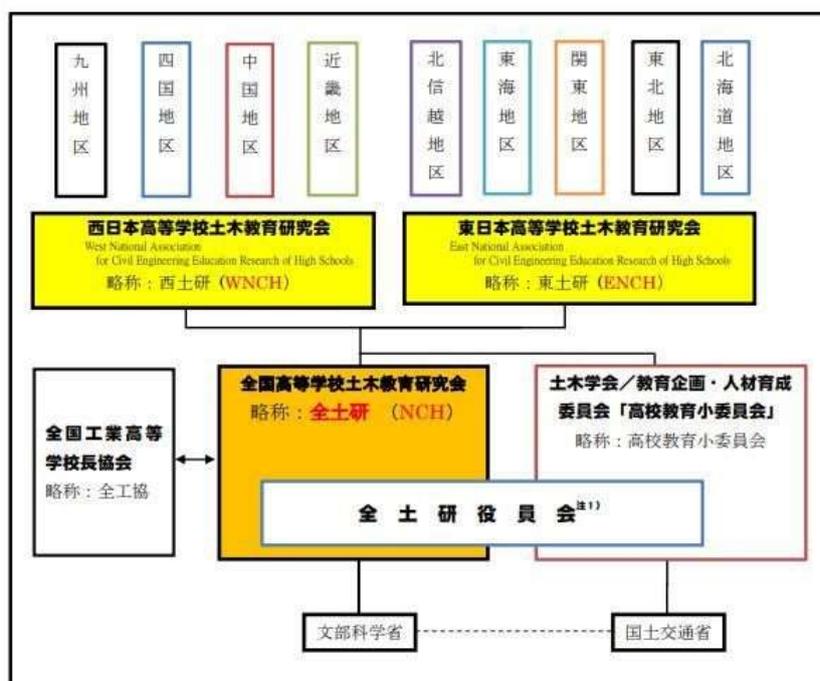


Fig. 1 組織図

■役員構成 令和5年4月現在

会 長	佐藤 恒徳	名古屋市立工業高等学校 校長	東土研会長
副会長	市川 仁士	福岡県立福岡工業高等学校 校長	西土研会長
顧 問	川西 一樹	(公財)兵庫県生きがい創造協会兵庫県いなみ野学園 学科主任 (前兵庫県立東播工業高等学校校長)	西土研前会長
顧 問	野田 昌彦	愛知産業大学工業高等学校 副校長 (前愛知県立半田工業高等学校校長)	東土研前会長
顧 問	三輪 智英	兵庫県立龍野北高等学校 実習助手 (前兵庫県立兵庫工業高等学校校長)	西土研顧問
相談役	渡邊 隆	(公社)全国工業高等学校長協会 事務局長 (前東京都立蔵前工業高等学校校長)	全土研相談役
相談役	赤木 恭吾	(大)岡山大学 特任教授 (前岡山県立岡山工業高等学校校長)	全土研相談役
常任幹事	服部 浩	千葉県立京葉工業高等学校 建設科 教諭	東土研事務局 全土研事務局
常任幹事	吉本 高之	兵庫県立東播工業高等学校 土木科 教諭	西土研
幹 事	東 君康	東京都立葛西工科高等学校 建築科 教諭	東土研
幹 事	岡田 篤	宮崎県立延岡工業高等学校 土木科 教諭	西土研
幹 事	近藤 大地	大阪府立西野田工科高等学校 建築都市工学系 教諭	西土研事務局
幹 事	近藤 正伸	茨城県立下館工業高等学校 建設工学科 教諭	東土研
幹 事	松井 享司	京都市立京都工学院高等学校 プロジェクト工学科 教諭	西土研
幹 事	高橋 武弘	群馬県立利根実業高等学校 環境技術科 土木コース 教諭 工業部長 環境技術科長 土木コース長	東土研
幹 事	西村 賢	岐阜県立岐南工業高等学校 土木科 教諭 科主任	東土研
幹 事	伊藤 務	長野県長野工業高等学校 土木工学科 教諭	東土研
幹 事	山下 敦	神奈川県立横須賀工業高等学校 建設科 総括教諭	科長 東土研
幹 事	鈴木 良孝	栃木県立那須清峰高等学校 建設工学科 教諭	科長 東土研

■関係、関連団体

全国建設業協会様、各都道府県の建設業協会様、全国測量設計業協会連合会様、各都道府県の測量設計業協会様、全国生コンクリート工業組合連合会様、全国生コンクリート共同組合連合会様、各地区の生コンクリート工業組合様、一般社団法人建設ディレクター協会様ほか、建設関連団体、建設関連会社様多数

■賛助頂いている団体

- 公益社団法人 土木学会様
- 一般財団法人 建設業振興基金様
- 戸田建設株式会社 利友会様



全土研（全国高等学校土木教育研究会） @zendoken2015 · 4月21日 ...

「NHK おはよう日本」のなかで、紹介された放送内容です。
本研究にもご協力いただいております建設ディレクター協会（京都サンダー（株））の新井様からの情報提供です。
工業高校と地域との関わりについても紹介されております。

#担い手

#佐賀県

#三重県



nhk.or.jp

どう確保？建設業の担い手

建設業界が担い手対策に力を入れています。専門的な書類作成を担う新たな職種「建設ディレクター」を導入する動きや、高校の建設系学...



全土研（全国高等学校土木教育研究会） @zendoken2015 · 4月21日 ...

ジュニア建設ディレクター資格講座を京都工学院高校で開催した内容の紹介です。

担い手確保につながる新しい取り組みの紹介です。

#京都府

#建設ディレクター



kensetsudirector.com

ジュニア建設ディレクター資格講座を開催 | 建設ディレクター協会

2023年3月24日、25日の二日間にわたり京都市立京都工学院高等学校にて「ジュニア建設ディレクター資格講座」を開催しました。生徒たち...

将来の建設産業を担う若者の入職促進と育成・定着を目的に活動している「建設産業人材確保・育成推進協議会」（平成5年8月設置、約150機関が参画）の事務局として、様々な取り組みを展開しています

主な取り組み

○建設人材育成優良企業表彰

建設産業の担い手の確保及び育成に向けた取り組みの推進を図るべく、建設キャリアアップシステム（以下「CCUS」）をはじめとして、人材育成等に取組み、「建設産業の担い手の確保・育成」に向けて、顕著な功績を挙げている企業等を表彰する制度を実施しています。

○作文コンクールの実施

建設産業で働く方と将来建設業に入職しようとする高校生による作文コンクールを実施しています。

○戦略的広報活動

- ・「建設現場へGO！」
一見る、知る、働く一、建設産業のさまざまな情報をお届けするJobポータルサイトです。
- ・「人材協Twitter」やYouTube「人材協チャンネル」
担い手確保・育成に関する有用な情報をSNSでご提供しています。

○建設産業の仕事を紹介するパンフレットの発行

「建設産業ガイドブック」
「ニッポンをつくる人たちまもる人たち」

○「こども霞が関見学デー」への参加

親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会を提供する取組として、国土交通省を含む省庁等が連携して毎年実施しているイベントに建設産業に関するブースを出展しています。

・「建設現場へGO！」



・「人材協Twitter」



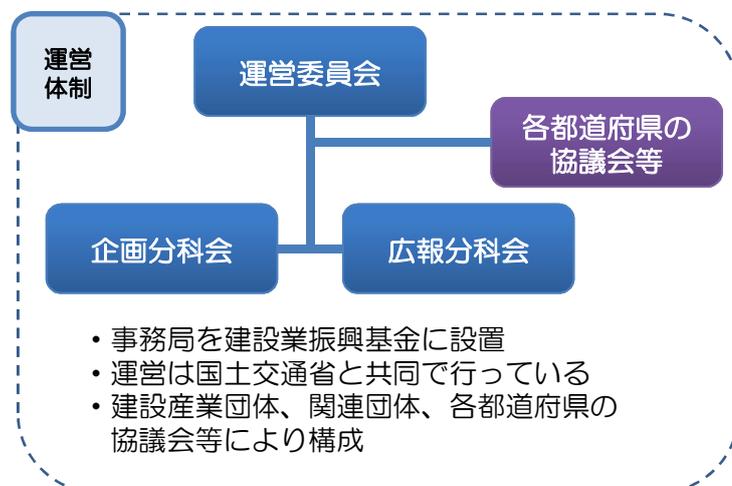
・YouTube「人材協チャンネル」



・広報物



・「こども霞が関見学デー」の様子



構成団体の主な取組

令和4年度 人材協全国担当者会議への報告より抜粋

計 69団体、取組数546

主な取り組み内容は以下の通り（重複カウントあり）

○小中学生向け（団体数30、取組数51）

体験型親子現場見学会、出前授業（重機操作や測量体験）、
県等主催イベントへの参加、絵画コンクール、
ショッピングモールでのVR体験・ブロックを使った街づくり体験
等

○高校生等向け（団体数64、取組数300）

現場見学会、出前授業、インターンシップ、企業合同説明会、
意見交換会（教員・進路指導者、学校OB、女性、生徒と保護者）
資格取得支援（受験料補助・受験準備講習会・小型機械特別教育）
建設業専門工事業合同体験フェア 等

○一般向け（団体数39、取組数73）

地元新聞への広告掲載、県等主催イベントへの参加、
テレビCM、ラジオ番組の制作、動画・アニメ制作、
SNS・YouTubeの活用、ラッピングバス広報、
会員企業の求人・インターンシップ受入情報WEBサイト、
高校美術部制作イラストの現場仮囲い描画、防災訓練への参加、
労働局とPRチラシの共同制作、PRポスターの制作、
現場見学会、科学技術館「建設館」の運営 等

○会員を対象とした教育訓練・その他（団体数51、取組数161）

新入社員合同研修、新入社員フォローアップ研修、
若手社員向け研修、中堅社員向け研修会、職長講習会、
資格試験準備講習会、技能講習会、職業訓練校の運営
女性交流会の開催 等

第1回 若年者入職促進タスクフォース
場所: 基金501会議室

モニター

Webカメラ
スピーカーマイク

全建
上田常任参与 ○

全中建
川村専務理事 ○

建専連
柳澤専務理事 ○

建コン協
油谷副委員長 ○

全地連
須見専務 ○

学校長協会
福田理事長 ○

土木教育研究会
東先生 ○

○ 事務局
岩船補佐

○ 事務局
佐藤部長

○ 厚労省
岡田室長補佐

○ 厚労省
秋山室長

○ 国交省
西山課長

○ 文科省
岩間室長

○

○

○

○

広島アカデミー
福井理事長

全国訓練協会
菅井専務

職人育成塾
齊藤常務